

震災を見届ける

いまするべきこと

二〇一一年三月十一日、二万人近くの命を一瞬にして奪い、生活と産業の基盤を根こそぎ破壊した東日本大震災を私たちは経験しました。「あの日の出来事」は一生心に刻みこまれるだろうと、あの時、誰もが思いました。当時まだ子どもだった人たちも、何か大変なことが起こったと感じたのを思い出すでしょう。

ところが七年経ったいま、そのときの記憶と教訓は日常の中に埋没し、ステレオタイプなメディア報道が時折伝える「復興」という抽象的なイメージに置き換えられつつあります。いや、それすらも素通りして、私たちは自分自身の目の前の課題に翻弄されながら、明日に向かって日々を過ごしているのではないのでしょうか。

セピア色になりつつある多くの国民の意識とは裏腹に、現地は大きく変わりつつあります。一生涯されることのないだろう記憶を胸に、「復興」の名の下に一人ひとり異なる新しい生活と新しい関係を築きながら、これまで沈黙してきた声を発し、さまざまな表現が生み出されつつあります。

そこには人間が生きていくということがあるのか、そして日本がこれから解決していかなければならない真の問題とは何かを教えてください。ホンモノの「教材」が凝集されています。

いまはボランティア以上に、「震災のいま」を見届け、そこから自分にとっての「何か」を学ぶべきときです。それがそが無念にも亡くなられた方々への供養となり、また被災された方々にとつての励みになってくれるのではないのでしょうか。

この講座はそのために文学部の教員が中心となって企画したものです。実際に現地を訪問し、映像作品や講演に目と耳を傾け、ディスカッションで考える場をご用意します。

もしこの企画に少しでも心に響く「何か」を感じたら、ぜひご参加ください。

実行委員 (文学部教授)

安藤寿康

荻野安奈

糸川麻里生

川島建太郎

後藤文子

大津波の爪あとを見届ける ～宮城県石巻訪問

被災した漁師さんの話を聞き、多数の人命が失われた石巻市内・大川小学校・女川町などを見学します。

日程: 2018年8月6日(月)～8日(水)

事前打ち合わせ: 8月3日(金) 13:00～14:30 三田キャンパス 大学院棟4F 342番教室

対象者: 慶應義塾に所属する高校生・大学生・大学院生・留学生

参加費: ¥25,000 (三田からの往復交通費と2泊分宿泊費, 昼食費別)

応募の仕方:

件名を「宮城訪問希望」としてあなたの「氏名・慶應義塾内の所属・学年」

を明記して、**7月29日(日)までに**、ishinomaki@flet.keio.ac.jp にお送りください。

延長
しました!

この講座では、これからも「放射能被害を見届ける～福島県訪問」、映画鑑賞、講演会、シンポジウム等を予定しています。

